

予 算 要 求 資 料

令和 4 年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 教育普及活動費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県美術館 総務部 管理調整係 電話番号：058-271-1313

E-mail：c21801@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,061 千円（前年度予算額：1,061 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,061	469	0	0	0	0	0	0	592
要求額	1,061	472	0	0	0	0	0	0	589
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

教育普及活動

日比野克彦館長ディレクションのもとナンヤローネ・プロジェクトは、ナンヤローネアートツアー「SuchSuchSuch(あんな/そんな/こんな)」を核とし、体験型プログラムをナンヤローネアートアクション、コロナ禍で始まったオンライン事業をナンヤローネ・プロジェクト@オンラインとして展開し、幅広い年齢層やニーズ、遠隔地からの参加にも対応しながら、新たな客層を獲得してきた。

令和 4 年度は、アフターコロナに向けたナンヤローネオンライン DX や現地機関（現代陶芸美術館や飛騨市美術館等）、教育機関（県内の幼保小中学校）への出前講座を展開し、ナンヤローネ・プロジェクト事業を一層推進するとともに、県内での教育普及活動の実績を積みあげていく。

スクールミュージアム

本事業の推進は、次代の美術文化を支え、かつ将来の来館者である児童・生徒を育成する契機となり、将来的な芸術文化の振興に必要である。

令和 4 年度も引き続き開催を希望する教育機関を調査し、次年度以降の実施を検討する。

(2) 事業内容

教育普及活動

(展覧会にちなんだ体験型プログラム)

- ① ナンヤローネアートアクション (展覧会に係る体験型プログラム)
- ② ナンヤローネアートツアー (アートコミュニケーション作品の活用)
- ③ ナンヤローネ DX (アートを楽しむオンライン事業の拡充)
- ④ 現地機関、教育機関の連携事業 (出張出前講座)

スクールミュージアム事業

要望のある教育機関の調査。

(3) 県負担・補助率の考え方

県民が芸術文化に触れ、身近に親しむことを通して、文化的な感性を高めていく機会に資するものとして、県の負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	116	準備旅費、広報旅費、講師旅費
需用費	679	消耗品費、打合せ会議費
役務費	32	保険料
委託料	210	看板等製作費
報償費	24	講師謝金
合計	1,061	

決定額の考え方

財政課で記載します。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 ナンヤローネ・プロジェクトをとおして、「美を楽しむ」活動を幅広い世代、ニーズに応じて提供し、すべての県民の文化芸術振興に寄与する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
						%
①						%
②						%

○指標を設定することができない場合の理由

開催の場所、時期、内容によって参加者数等が異なるため明確な指標を設定することができない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>○取組内容</p> <p>・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）R3年度8月時点 R3年度ナンヤローネアートアクション 4回 参加人数 118人 R3年度ナンヤローネアートツアー 3回 参加人数 53人 R3年度ナンヤローネ・プロジェクト@オンライン ・作品鑑賞インスタライブ 3回 148名視聴 ・企画展 作家トーク YouTube 動画ライブ配信 1回</p> <p>○成果</p> <p>これまでのアートツアーやワークショップを基盤に、オンライン事業を開拓し、アートを楽しむ新しい鑑賞活動を提供することができた。 今年度は、館外での出張出前講座やナンヤローネDXによるオンライン事業の拡充により、遠隔地や現地機関、教育機関からの客層を獲得し、アートの魅力を発信していく。</p>
-------	--

令和 3 年度	指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__ %
令和 4 年度	指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>アフターコロナに向けたアートの楽しみ方を幅広く提供していくことは、美術館が社会に果たす重要な役割であり、そのために関係機関との連携を図ることは、美術館の教育普及には欠かせない。本事業は、その根幹の事業であり県の関与が妥当である。</p>
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>岐阜県美術館教育普及事業に対する県民の期待は大きく、事業への参加者も定着している。本事業は美術館の新しい方向性を打ち出すもので、期待以上の成果が得られている。</p>
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 1	<p>教育普及事業、拡大事業、広域美術館事業の3本を1本化し、事業費と内容を精査した。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 参加者のニーズが多様化するなかで、リピーターの要望に応えながら、新しい来館者の開拓が必要である。内容の充実と効果的な広報活動が課題である。そのためには、当館普及事業の成果を報告書に整理し、県内の教育機関及び県外美術館の教育普及係へ情報発信をしていく必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 美術館にとって普及事業は常に県民のニーズに答えていく事業である。参加者の声に耳を傾けながら、美術館の新しいあり方を県民に提案していく。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>【 課 】</p>
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	